

国立国会図書館



開館60周年を記念して

「1998-2008」この10年のトピックスと今後

(3) 新たなサービスポイントー関西館、国際子ども図書館

国際子ども図書館展示会「チェコへの扉ー子どもの本の世界ー」ができるまで
デジタル時代の新聞の保存と利用

2008.6
No.567

国立国会図書館利用案内

東京本館 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300 (音声サービス)
03(3506)3301 (FAX サービス)

関西館 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台
8-1-3
電話 0774(98)1200 (音声サービス)
利用案内 0774(98)1212 (FAX サービス)

ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)

<東京本館のおもな資料>

和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

<関西館のおもな資料>

和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

<東京本館のサービス時間>

開館時間 月～金曜日 9:30～19:00
土曜日 9:30～17:00
※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。
資料請求時間 月～金曜日 9:30～18:00
土曜日 9:30～16:00
※ただし、音楽・映像資料室、人文総合情報室特別コレクション、憲政資料室および古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。
即日複写受付 月～金曜日 10:00～18:30
土曜日 10:00～16:00
後日複写受付 月～金曜日 10:00～18:30
土曜日 10:00～16:30
オンライン複写受付 月～金曜日 10:00～17:30
土曜日 10:00～15:30

<関西館のサービス時間>

開館時間 10:00～18:00
資料請求時間 10:00～17:15
即日複写受付 10:00～17:00
後日複写受付 10:00～17:45
セルフ複写受付 10:00～17:30
オンライン複写受付 10:00～17:00

<見学のお申込み>

国立国会図書館 資料提供部利用者サービス企画課
03(3581)2331 内線26111

<見学のお申込み>

国立国会図書館関西館 総務課 0774(98)1224(直通)

国際子ども図書館

〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069 (音声・FAX サービス)

ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます
(ただし資料室は満18歳以上の方)
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
開館時間 9:30～17:00
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は除く)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※ただし、第一、第二資料室は日曜日に休室します。

<おもな資料>

国内外の児童書・児童雑誌、児童書関連資料

<見学のお申込み>

国立国会図書館国際子ども図書館 企画協力課 03(3827)2053(代表)

支部東洋文庫

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-21
電話 03(3942)0122(代表)

<おもな資料>

欧文、アジア諸言語で書かれた東洋全域に関する資料、モリソン文庫、岩崎文庫、チベット文献等

- 02 『書齋の岳人』－ミノムシ装の展望社本－
今月の1冊－国立国会図書館の蔵書から－
- 04 開館60周年を記念して
「1998-2008」この10年のトピックスと今後
(3) 新たなサービスポイント－関西館、国際子ども図書館
- 12 国際子ども図書館展示会
「チェコへの扉－子どもの本の世界－」ができるまで
- 18 使う人がいる 守る人がいる (6) 利用による破損とその対策
- 19 デジタル時代の新聞の保存と利用
－アメリカ、ニュージーランド、オーストラリアの取組み
- 24 「虫を記録する」－昆虫図鑑古今東西
本を魅せる 常設展示案内 (30)

11 館内スコープ 個性豊かな言語から見えるもの

25 本屋にない本

- 『資料で見る南海高野線のあゆみ』
- 『夢の50年史 高級化粧品アルビオンの歩み 1956-2006』

28 月例報告 法規の制定

29 お知らせ

- 国際子ども図書館展示会「チェコへの扉－子どもの本の世界」関連講演会
- 国際子ども図書館 夏休み催物「科学あそび」光のふしぎ－みんなで楽しく万華鏡づくり
- 国立国会図書館開館60周年記念行事のご案内
- 新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

『書齋の岳人』 — ミノムシ装の展望社本 —

石田 暁子



写真1 背と表紙 (部分)。

黄土色の表紙に、焦げ茶色の背 (写真1,2)。この本、いったい何でできていると思いますか？ 厚手の和紙のようにも見えますが、実は表紙は、木の皮を薄く挽いたもの。そして背貼りはなんと、蓑虫の蓑を切り開きモザイク状に貼り込んであるのです。

この装丁を考えたのは、斎藤昌三 (1887-1961)。自らを「書痴」と称した書物愛好家です。発禁本や風俗本に興味を寄せ、『明治文芸側面鈔』(1916)、『近代文芸筆禍史』(1924)などの編著があります。また蔵書票や特装本など、本にまつわる美術工芸的な事柄についても深い関心を抱き、『いもづる』(1923-1941)『愛書趣味』(1925-1930)などの趣味誌を主宰しました。

昭和6年12月、斎藤は仲間とともに、書評誌『書物展望』を創刊します。そしてその発行元である書物展望社から、一風変わった装丁の本を出版しはじめました。はじめ

りは、内田魯庵著『紙魚繁昌記』(1932)。書名にちなんで、見返しに虫喰い跡がある古紙を貼り、紙魚の姿を銀色で刷り込みました。また、同年の自著『書癡の散歩』では、古い番傘の紙をはがして表紙に使いました。民俗学者の柳田国男は、こうした特殊な装丁を「下手(げて)趣味」と評しました。斎藤も自ら「げて装本」の呼び名を用い、蚊帳・筍の皮・海苔などの奇抜な材料を使った本を次々と出版しました。これらの特装本は、同社から出たほかの豪華本・限定本とあわせて、「書物展望社本」あるいは「展望社本」と呼ばれています。

特殊な材料で本を作るには、製本師の協力が必要です。斎藤に協力したのは、中村重義という製本師です。斎藤は中村のもとに鮭の皮、蛇の皮、古新聞などの材料を持ち込んで、装丁に生かすための研究をさせ、中村もこれを面白がって工夫を重ねたといいます。斎藤の着想と中村の技術

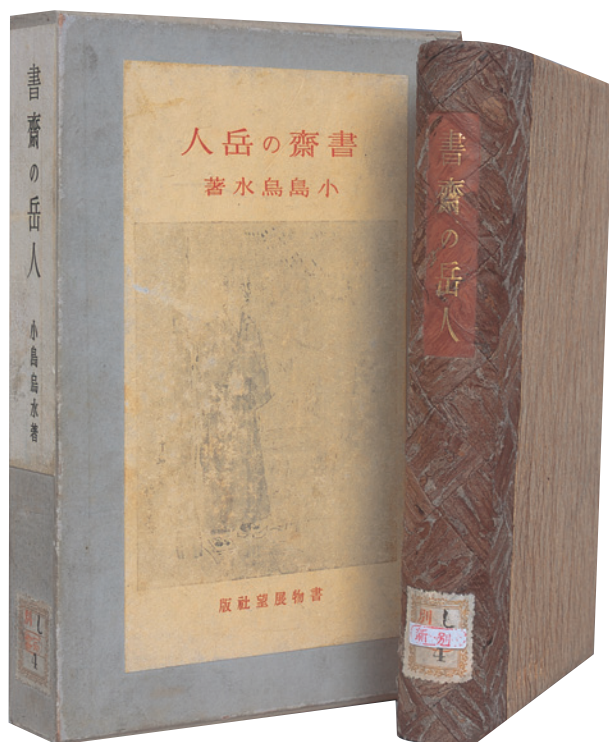


写真2 函と本体。函に印刷された絵は、山岳画家・茨木猪之吉「庭園を徘徊する人」。



写真3 扉

により、多くの書物展望社本は作られているのです。

人目を驚かす「げて装本」ですが、斎藤は装丁の材料を単に新奇であるというだけではなく、内容との関連性も考えて選んでいたようです。『書齋の岳人』の場合も、例外ではありません。著者の小島烏水(1873-1948)は、東西の古書や版画の研究家で、斎藤とは旧知の仲です。横浜正金銀行に勤めながら登山家としても活躍した、日本近代アルピニストの草分けでもあります。本書は、登山と古書と版画に関する文集で、背に使われた蓑虫は、山に住むものという縁によるのです。また、表紙に使われている樹皮は「南洋産」で、タヒチを描いた画家、ポール・ゴーギャンに関する書中の一文に対応しています。表見返しには「森の生活者」と呼ばれたアメリカの作家、ヘンリー・ソローが傍で暮らしたウォルデン湖の図が、裏見返しには北斎の素描が、扉には立山の図(写真3)が印刷されています。

いずれも本書の内容にちなむものです。

「蓑虫の音を聞きに来よ草の庵」とは、芭蕉の門人、服部土芳の句です。小島烏水は、本書の前書きにこの句をひいて、寂びた装丁を喜びました。本書の出版に際して使われた蓑虫はおよそ3万匹。「いずれ蓑虫供養でもせずはなるまい」とは、『書物展望』昭和9年9月号の編集後記に書かれた斎藤の神妙なひと言でした。

『書齋の岳人』 小島烏水著 書物展望社 昭和9年

<当館請求記号 新別し-4 >

※本書は貴重本のため、複本<当館請求記号663-83>(函なし)での閲覧となります。

参考資料：『書痴斎藤昌三と書物展望社』 八木福次郎 平凡社 2006 <GK123-H49>、『日本古書通信』第27巻第2号 日本古書通信社 <YA5-1135>、『閑板書国巡礼記』 斎藤昌三 書物展望社 1933 <656-51>、『げて装本の話』 斎藤昌三 青園装私家版 1943 <当館未所蔵>、『新富町多与里』 斎藤昌三 芋小屋山房 1950 <UE9-4> ほか

開館60周年を記念して 1998-2008

—この10年のトピックスと今後—

(3) 新たなサービスポイント—関西館、国際子ども図書館

2002年に開館した関西館は、蔵書の大規模な収蔵施設として計画されましたが、遠隔利用サービスや電子図書館事業の拠点として、地理的な制約を超えた全国規模のサービスを行っています。また、関西文化学術研究都市を支える調査研究図書館としての役割を担っています。

一方、2000年に開館した国際子ども図書館は、日本初の国立の児童書専門図書館です。「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く」を理念とし、国内外の児童書や関連の研究書を広範に収集し、子どもの読書に関わる活動や調査研究を支援しています。また、子どもと本の出会いの場として、子どもたちに図書館や本の世界に親しむきっかけを与える活動を行っています。

関西館の誕生



関西館外観

2002年4月、関西文化学術研究都市の中心地である京都府精華町に国立国会図書館関西館を設置し、同年10月に開館しました。

関西館の置かれた理由は大きく分けて二つあります。第1に年々増加する蔵書により、東京本館の書庫がほぼ満杯になり、新たなスペースの確保が必要になったこと、第2には、インターネット時代に対応した図書館サービスが期待されていたこと、この二つの課題に対応するためです。

東京本館と関西館は、建物が東京と関西に離れて

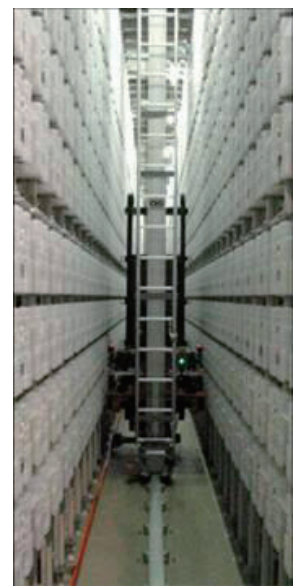
いますが、組織上は一つの図書館として機能を分担しています。

関西館が担っている機能は、来館利用サービス、遠隔利用サービス、アジア情報サービス、電子図書館事業、図書館協力事業です。

アジア情報サービス、電子図書館事業、図書館協力事業は、この連載の別の回で紹介しますので、今回は、関西館の施設、サービスと所蔵する資料の特徴を中心に紹介します。

1 建物について

関西館は、地上4階、地下4階の計8階の建物です。延床面積は約60,000㎡です。これは甲子園球場のグラウンド(13,500㎡)約4個分の広さに相当します。非常に大きな施設といえますが、地上から見えるのは、60,000㎡の約2割にすぎません。



自動書庫：
約140万冊の収蔵能力を誇ります。



書庫

残り 8 割を占めるのは地下階という建物になっています。

まず地下 1 階には閲覧室、大会議室などがあります。さらにその下の地下 2 階から地下 4 階には約 600 万冊の収蔵能力を誇る書庫が設置されています。書庫には通常の書架のほかに、機械が資料をコンテナ単位で取り出す仕組みの自動書庫などが配置されています。4 階にはカフェテリアがあり、屋上庭園が作られています。

開館の際には、東京本館から約 320 万冊の資料が運び込まれました。開館後も資料は増え続け、あと 10 年で東京本館と関西館の現在の書庫は満杯になる見込みです。その日に備えるため、関西館に新たに収蔵能力約 1,400 万冊の書庫を増設する計画を立て準備を進めています。

2 サービス

次に関西館のサービスについて紹介します。

関西館は東京本館と同じく満 18 歳以上の方であれば、誰でも利用できます。

閲覧室は面積が約 4,500㎡（100m × 45m）、天井までの高さが 5m のゆったりした空間で、総合閲覧

室とアジア情報室があります。この二つの閲覧室を隔てる壁はありませんので、一つのスペースとしてシームレスに利用できます。閲覧室には約 12 万冊の参考図書と主要な雑誌・新聞が書架に並んでおり、自由に利用することができます。

蔵書のほとんどは書庫に収蔵されており、閲覧室の専用端末から閲覧申込みをして利用することができます。

閲覧室には総合案内カウンターとアジアカウンターがあります。それぞれのカウンターで検索方法や資料の案内を行っています。

また、来館しなくても遠隔利用サービスによって資料を利用することができます。利用者登録をすれば直接、国立国会図書館のホームページから資料の複写申込みができます。また、お近くの図書館から、国立国会図書館の蔵書の取寄せや複写サービス、レファレンスサービスを申し込むことができます。



総合閲覧室

3 所蔵資料について

東京本館と関西館は、それぞれの機能に応じて、国立国会図書館全体の蔵書を分散して所蔵しています。関西館には遠隔利用サービスの窓口とアジア情報室が設置されているため、これらの機能に適した

資料群を所蔵しています。

おもな資料群は科学技術関係資料、利用の多い和雑誌、洋雑誌、アジア言語資料、国内博士論文、文部科学省科学研究費補助金による研究成果報告書(科研費報告書)などです。さらに、近畿圏における大型調査研究図書館として、日常の調べ物から学術的な調査研究まで幅広いニーズに応えられるよう収集した和洋図書、新聞などを幅広く提供しています。

関西館には国立国会図書館が所蔵する外国語の雑誌のほとんどを配置しています。これに加え、電子ジャーナルで欧米言語の学術雑誌約16,000誌、中国語の学術誌約7,600誌を利用できます。外国語雑誌のコレクションは関西館の大きな特徴といえます。

関西館の所蔵資料数(概数・2007年10月現在)

図書	和図書(冊)	610,000
	洋図書(冊)	46,000
	明治期刊行図書マイクロフィルム(冊分)	170,000
逐次刊行物	和雑誌・新聞(タイトル)	40,000
	洋雑誌・新聞(タイトル)	44,000
文部科学省科研費報告書(件)		147,000
国内博士論文(人分)		480,000
科学技術資料	海外テクニカルレポート(件)	2,561,000
	海外博士論文(件)	466,000
	海外学協会ペーパー(件)	165,000
	欧文会議録(件)	61,000
	内外規格資料(件)	115,000
小計		3,368,000
アジア言語資料	図書(冊)	297,000
	雑誌・新聞(タイトル)	7,700

また、関西館の所蔵する日本語資料は、選択的に収集した資料が中心となります。関西文化学術研究都市におかれた調査研究図書館として、近隣の研究機関のニーズにあった蔵書構築をすすめるとともに、遠隔利用サービスのニーズの高い資料、例えば、国立国会図書館作成の「雑誌記事索引」に採録され

ている和雑誌などタイトル数を増やしていくことが今後の課題です。

国立国会図書館関西館は、国立国会図書館の中央図書館としての機能と近畿圏における大型調査研究図書館の機能を有しています。データベースフォーラムなどのイベントの開催、利用者ガイダンス、地域の公共図書館・研究機関などとの連携によって、関西館の特徴と役割をさらに広く知ってもらい、幅広く利用いただけるよう努めていきます。



エントランス

(関西館総務課)

国際子ども図書館の誕生



国際子ども図書館外観

近年、多様なメディアの発展・普及や生活環境の変化等により、子どもの活字離れ、読書離れが進み、社会問題として大きく取り上げられるようになりました。そこで、1993年に、民間の関係諸団体による「子どもと本の出会いの会」と国会議員による「子どもと本の議員連盟」が結成され、国立の児童図書館設立と学校図書館の充実を目標に活動を開始しました。そして1995年には「国立の国際子ども図書館設立を推進する全国連絡会」と「国際子ども図書館設立推進議員連盟」が設立されました。

国立国会図書館は上野公園にある支部上野図書館の将来計画を検討しており、これらの社会的な機運をふまえ、児童書専門図書館とすることに決め、具体化に向けて検討を重ねました。こうして、2000年1月に国立国会図書館の支部図書館として誕生したのが、国際子ども図書館です。同年5月5日の開館を記念して、2000年を「子ども読書年」とする国会決議がなされ、翌2001年には子どもの読書活動推進法が制定されるなど、国際子ども図書館の誕生は、国を挙げて子どもの読書環境の整備に取り組むひとつの契機となりました。

なお、2000年の開館後も改修工事を続け、2年

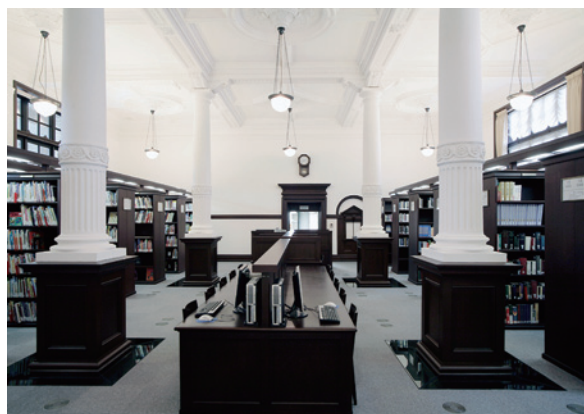
後の2002年5月5日に全面開館しました。

1 建物について

国際子ども図書館の建物は、1906年に帝国図書館として建てられ、1929年に増築された、ルネサンス調の重厚な洋風建築で、外観は東京都の歴史的建造物に指定されています。国際子ども図書館として再生するにあたり、内装の意匠・構造を最大限保存・復元しました。明治・昭和の貴重な建築遺産と、現代的な機能・空間をあわせもつ国際子ども図書館には、毎年10万人以上が訪れ、特に週末は読書を楽しむ親子連れでにぎわいます。

2 児童書の資料・情報センターとして

保護者、図書館員、教諭、研究者、出版者、作家等、子どもと本を繋ぐ立場にある大人に対し、児童書のナショナルセンターとして様々なサービスを行っています。



第二資料室

2-1 資料の収集・保存・利用

国内刊行児童書の網羅的な収集と海外の優れた児童書の収集は、国際子ども図書館の最も重要な役割で、すべてのサービスの核になるものです。東京本館から児童書を移管し、学校教科書の収集も開始し

て、国際子ども図書館の蔵書は、開館当初の5万冊から35万冊に増加しました。その中には、研究者が長年かけて収集した貴重なコレクションも多く含まれています。これら内外の児童図書、児童雑誌、関連の研究書等は、満18歳以上の方であれば誰でも、2階の第一・第二資料室で利用できます。また、図書館間貸出し、複写、レファレンスサービスも行っています。

2-2 電子情報の発信

全国的なサービスを実現するために、インターネットによる情報発信にも力を注いでいます。

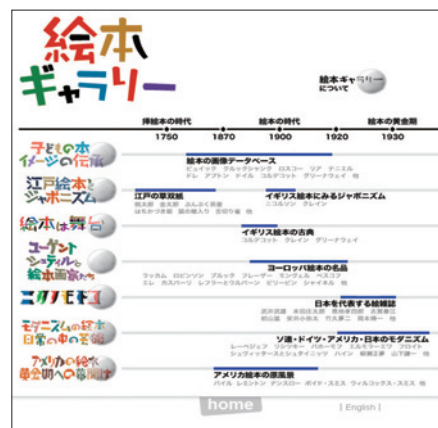
「児童書総合目録」は、児童書を所蔵している国内のおもな7機関と国立国会図書館の蔵書が検索できます。受賞情報や解題情報のほか、一部の図書にはあらすじデータを加え、利用者が持っている断片的な記憶や情報から資料を特定する一助としています。



児童書デジタルライブラリー

資料のデジタル化も進めており、昭和30年以前に刊行された国内児童図書のうち、著作権処理した約1,200タイトルを「児童書デジタルライブラリー」で提供しています。

「絵本ギャラリー」は、挿絵として出発した18世紀から黄金期を迎える20世紀初頭までの絵本の歴史を、日本と欧米の古典的名作を紹介しながらたど



絵本ギャラリー

る電子展示会です。5月に公開した「アメリカの絵本 黄金期への幕開け」など七つの展示があります。

2-3 展示会・講演会等の開催



ホール、メディアふれあいコーナー

所蔵資料の紹介も兼ねて、児童書の魅力を広く知っていただくために、毎年、企画展示と関連講演会を開催しています。また、全国の児童図書館員等を対象として年1回開講している「児童文学連続講座」は、系統だった知識が得られると好評です。今年、日本の昔話をテーマに11月に実施します。この講義録や各種講演会の記録、その他内外の児童書・児童サービス関連情報を国際子ども図書館のホームページで随時提供していますので、是非ご利用ください。

開館60周年を記念して 1998-2008

—この10年のトピックスと今後—

展示会テーマ一覧

1	子どもの本・翻訳の歩み展*1	平成 12 年 5 月 6 日～6 月 4 日
2	なつかしのえほん—昭和二十年代から三十年代の子どもたちへ	平成 12 年 6 月 10 日～7 月 16 日
3	アジアを知ろう—アジアの絵本と絵日記展	平成 12 年 7 月 21 日～9 月 24 日
4	本に拍手を！—アメリカ児童図書週間ポスター展	平成 12 年 10 月 7 日～11 月 26 日
5	絵本が映し出すオーロー—北欧の作家と絵本展	平成 12 年 12 月 2 日～平成 13 年 2 月 4 日
6	¡Hola, amigos! やぁ！ともだち—中南米の子どもの本展	平成 13 年 2 月 10 日～4 月 8 日
7	O CANADA —カナダの子ども・文化・自然	平成 13 年 4 月 14 日～9 月 2 日
8	本にえがかれた動物展	平成 13 年 9 月 8 日～12 月 22 日
9	不思議の国の仲間たち—昔話から物語へ*2	平成 14 年 5 月 5 日～9 月 14 日
10	子どもたちのまなざし—アボリジニの大地から	平成 14 年 9 月 28 日～12 月 1 日
11	絵本に見る夢—ヨーロッパの国々から	平成 14 年 12 月 14 日～平成 15 年 1 月 19 日
12	占領期の子どもの本—メリーランド大学所蔵ブランゲ文庫児童書コレクションから	平成 15 年 2 月 1 日～4 月 13 日
13	ゆめいろのパレット—野間国際絵本原画コンクール入賞作品 アジア・アフリカ・ラテンアメリカから	平成 15 年 4 月 25 日～7 月 6 日
14	未知の世界へ—児童文学にえがかれた冒険*3	平成 15 年 7 月 19 日～11 月 9 日
15	国際アンデルセン賞 受賞作家・画家展	平成 15 年 11 月 15 日～平成 16 年 1 月 11 日
16	みんなのちず—全国児童生徒地図優秀作品と子どもの地図の本展	平成 16 年 1 月 17 日～2 月 22 日
17	いろのまほうつかい—エリック・カール絵本の世界	平成 16 年 3 月 7 日～3 月 30 日
18	蓮の花の知恵—インドの児童文学	平成 16 年 4 月 17 日～9 月 5 日
19	本にえがかれた動物展Ⅱ—十二支を手がかりに*4	平成 16 年 9 月 18 日～平成 17 年 4 月 10 日
20	ロシア児童文学の世界—昔話から現代の作品まで*5	平成 17 年 4 月 23 日～9 月 18 日
21	読書の楽しみをすべての子どもたちに「展示 A 世界のバリアフリー絵本展」	平成 17 年 7 月 21 日～7 月 24 日
22	読書の楽しみをすべての子どもたちに「展示 B 日本のバリアフリー図書の歩み」	平成 17 年 7 月 21 日～9 月 4 日
23	ゆめいろのパレットⅡ—野間国際絵本原画コンクール入賞作品 アジア・アフリカ・ラテンアメリカから	平成 17 年 10 月 1 日～平成 18 年 1 月 15 日
24	もじゃもじゃペーターとドイツの子どもの本	平成 18 年 1 月 28 日～7 月 2 日
25	北欧からのおくりもの—子どもの本のあゆみ*6	平成 18 年 7 月 15 日～平成 19 年 1 月 28 日
26	旧帝国図書館建築 100 周年記念展示会	平成 18 年 9 月 26 日～12 月 17 日
27	大空を見上げたら—太陽・月・星の本	平成 19 年 2 月 10 日～9 月 9 日
28	ゆめいろのパレットⅢ—野間国際絵本原画コンクール入賞作品 アジア・アフリカ・ラテンアメリカから	平成 19 年 9 月 22 日～平成 20 年 1 月 13 日
29	チェコへの扉—子どもの本の世界*7	平成 20 年 1 月 26 日～9 月 7 日



3 子どもへのサービス



子どものへや

子どもたちに読書の楽しさを伝え、図書館や本の世界に親しむきっかけを与えるために、1階に子ども用の閲覧室（「子どものへや」と「世界を知るへや」）を設け、内外の定評ある絵本・読み物や知識の本など1万冊余りを提供しています。また、様々な子ども向けの催し物や見学会を実施しています。

子どもたちにとって最も身近な場所である学校図書館に対しては、本を通して子どもたちの国際理解を深めることを目的に、セット貸出しを行っています。これは、国や地域別に児童書等50冊前後をセットにし、1校につき1か月間貸し出すもので、2002年11月に開始してから2007年度末までに延



世界を知るへや

べ1,047校が利用しています。昨年度に「ヨーロッパセット」を新たに加え、現在6種類のセットを用意しています。



ヨーロッパセット

4 今後の計画

国際子ども図書館の書庫は2012年頃には満杯になります。また、歴史的建造物であるがゆえの機能上の制約や事務・作業スペースの狭隘が懸案となっています。このため、新たに施設を増築し、書庫を増設すると共に各種サービスの改善・充実を図ることとし検討を進めているところです。

(国際子ども図書館 企画協力課)

◎次回は、利用者サービスについてご紹介します。

個性豊かな言語から見えるもの

2549年1月号。手に取った雑誌の巻号に目を丸くしたことがあります。未来の雑誌か、はたまた単なる印刷ミスか。

いいえ、タイの仏暦2549年は西暦2006年に当たるので、間違いではありません。タイでは、仏暦での巻号表記が一般的なのです。

アジア情報課では、3年計画でアジア諸地域の雑誌の収集に力を入れており、東南アジア、南アジア、中東・北アフリカ発行のものを中心に、数も種類も充実しつつあります。

中国語、朝鮮語以外のアジア諸言語の雑誌はNDL-OPACで書誌データを公開するため、アルファベット表記でない言語の場合は、誌名や出版者を翻訳する必要があります。ところが、誌面を見ると、まるで生き物のような文字が躍っています。タイ語、クメール語、ラオ語、ヒンディー語、ベンガル語、アラビア語、ペルシア語などは文字も、その翻字規則も異なるので、時には言語の基礎から勉強することもあります。

書誌事項からも地域ごとの特色がうかがえます。今月届いた雑誌を見てみると、巻号に見られる月の名称は、Mei, tháng 5, พฤษภาคม, मई, اردیبهشت, مايو, جمادى الأولى, Mayis と様々です。暦法も西暦だけでなく、仏暦、イスラーム暦（ヒジュラ暦）、イラン太陽暦、ヴィクラマ暦などが使われていて、ベトナムの旧正月



“T. L. A. Bulletin” 1957年7-9月号 タイ図書館協会発行の雑誌。誌名の下部中央にタイ数字で「๒๕๐๐ (2500)」とある

(テト) や、イスラーム地域のラマダーン（断食月）には特別号や付録がやってきます。出版地の表記では、タイの首都バンコクの正式名称 กรุงเทพมหานคร (Krung Thēp Mahā Nakhōn) は、頭文字による省略形 กทม (Kothomo) で示されることが多く、知らなければ見落としてしまいかねません。

収集している雑誌は言語だけでなく分野もさまざま、政治、経済、風俗、文化遺産、骨董・美術、写真、農業、科学技術、女性、観光など多岐にわたります。記事の内容はもちろん、色鮮やかな写真、辛らつな風刺画、広告やレイアウト、紙の手触りまで含めて、どの雑誌も生き生きとアジアの今を伝えています。日本ではまだ一般に馴染みのない言語でも、それらの個性豊かな言語で発信される情報に触れるとき、その言葉の背景にある多様な文化を実感します。新鮮な驚きは尽きることがありません。

(アジア情報課アジア第一係 万華鏡)

国際子ども図書館展示会

チェコへの扉

— 子どもの本の世界 —

ができるまで

国立国会図書館国際子ども図書館（以下当館）では、子どもの本に関する展示会を年に数回開催しています。テーマは中南米や北欧などの国や地域を扱ったもの、動物、太陽・月・星など特定のテーマに関するものなどさまざまです。当館が所蔵する特別コレクションを中心に構成することもあります。

当館では収集した国内外の児童書の多くを書庫に収蔵しているため、展示会はコレクションを紹介する絶好の機会になります。数年先までの展示スケジュールを立て、展示テーマを決め、展示班を作り、展示会に向けて準備を始めます。

現在、開催している「チェコへの扉—子どもの本の世界—」がどのように作られたのか、展示会開催の主旨や準備の過程を紹介します。



パネル設営

1 なぜチェコなのか

最近ではチェコの絵本の展覧会が開かれたり、チェコのアニメーションが上映されたりする機会が増えていますが、チェコの認知度はまだあまり高いとはいえません。

しかし、チェコには絵本や児童文学の豊かな伝統があります。当館が購入した20世紀前半の昔話や創作童話218点、千野栄一氏旧蔵資料623点のチェコの児童書コレクションを中心にチェコの子どもの本の紹介をしたい、というのが展示会開催のきっかけです。

班長、職員3名、オブザーバー、学芸員資格を持つ展示担当非常勤職員3名の8名で展示班を発足させ、第1回会議を平成18年12月12日に開催しました。

監修は、前述のチェコの児童書コレクションを購入する際に助言をいただいたチェコ児童文学研究者の村上健太氏にお願いしました。

2 展示の構成を考える

蔵書の紹介を一番の目的として、通史的にチェコの子どもの本の展示を行う構成に決定しました。邦訳書がすでに絶版の場合も多く、目に触れる機会も少ないので、日本での紹介事情がわかるよう、邦訳書を原書と合わせて展示するという方針を決めました。

展示タイトルは班員で案を出し合い「チェコへ

の扉—子どもの本の世界—」とし、「チェコへ通じる入り口」という意味と「チェコの児童書の扉を開けて読んでみて下さい」の意味を込めました。

3 展示資料を選ぶ

展示班にチェコ語に堪能な職員がいるわけでも、チェコの児童文学に精通した職員がいるわけでもありません。監修者からチェコの児童文学史について講義を受けるかわら、参考になる文献を探すことから始めました。三鷹市美術ギャラリーや目黒区美術館など、チェコの絵本や児童書の展覧会を開催しているところにも見学に行きました。

展示するチェコ語資料には邦訳がないものが多いことから、監修者に1冊1冊内容について説明を受け、展示資料を決定していきました。また、見て楽しい展示を心がけ、文学作品だけが並ぶことのないよう表紙や挿絵が魅力的な絵本も積極的に取り上げることにしました。

チェコセンター（駐日チェコ共和国大使館に併設し、チェコ文化を紹介）などから通史を追う展示の流れで欠か

せない資料を借用し、最終的に展示資料を263点としました。



4 ポスター、ちらしを作る



ポスター、ちらし(左)は展示のイメージを伝える重要なものです。そのため、何度も検討を重ね、よく知られているお馴染みの本やパッ

と目を引く絵本の表紙を取り上げることにしました。はじめは展示タイトル「チェコへの扉」にちなみ、扉から子どもがのぞいているデザインを考えていましたが、チェコの国旗の三色(青、白、赤)を基調にした現在のデザインに至りました。掲載にあたり、日本とチェコの出版社に表紙の掲載の許諾を依頼しました。

5 図録を作る

図録(右上)の表紙のデザインは扉をイメージしたものにしました。ドアノブにかかっているプレートのチェコ語「Ahoj!」(アホイ)は、「やあ」という軽いあいさつです。

図録には監修者による解説のほか、全展示資料の写真と書誌事項・あらすじ、作家紹介を収録しています。コラムは千野栄一氏夫人の保川亜矢子氏、『黒ねこミケシュのぼうけん』などの翻訳者

の小野田澄子氏に依頼しました。

洋書の著者名には読みをふりました。チェコ語の発音が日本語の表記にしづらいため、邦訳書の著者名にはばらつきがありますが、今回は監修者に指示を仰ぎ、なるべく原語の発音に近い読みを採用しました。また、邦訳がない洋書は興味を引きにくいおそれがあるため、タイトルの訳をつけました。



作家紹介を書く際に、日本語はおろか英語でも参考文献が見つからず苦労しましたが、監修者のご指導のもと、チェコ語の文献やインターネットサイトを活用して作成しました。さらに、作家の肖像写真を図録やパネルに掲載するため、著作を刊行している日本の出版社、本人の公式ホームページなどに許諾依頼を出しました。

作家紹介には著作を探す索引として使えるように展示資料番号を付しました。なお、巻末の資料編には、年表、地図、参考文献も掲載しています。

6 展示会場の工夫

①パネル、キャプション



展示塔の壁面には解説パネル（上）が並びます。今回は展示の流れに沿ってパネルの色分けをし、第1部は茶、第2部は深緑、第3部は群青としました。

展示資料を実際に見てみたいという要望が多数寄せられます。そこで、当館1階「世界を知るへや」で一部の展示資料を手にとって見られるようにしています。ミュージアムから「世界を知るへや」への導線を設けるため、展示ケース内にキャプション（下）を置いて明示しました。

この本は1階「世界を知るへや」で手に取ってご覧いただけます。

②原画

当初から原画を何点か他機関から借用したいと考えていました。ちひろ美術館から、展示資料

^{トゥルンキ・ブルンキ・ナ・ティ・フルンキ}
『Trnky brnky na ty hrnky』にあるミルコ・ハナークの習作2点、アドルフ・ボルンのリトグラフ2点、展示資料『ふしぎなかず』からクヴィエタ・パツオウスキーの原画2点、イジー・トゥルンカの映画「手」のイメージ画をお借りしました。トゥルンカの原画は本邦初公開です。展示期間は①1月26日－2月19日（終了）、②6月28日－7月27日（トゥルンカを除く）、③8月1日－8月31日です。

なお、この期間以外の時期はトゥルンカの原画を除き、複製画を展示しています。

③グッズ

展示に親しみを持ってもらえるよう、資料以外に、チェコに関連したグッズと一緒に展示しています。ミュージアムのカウンターには、ヨゼフ・ラダの挿絵を集めたカレンダーを置きました。特別コーナーには、カッパの



操り人形（右）を展示しています。チェコの子どもの本に描かれたカッパの挿絵と見比べることができます。

その他に、ズデニェク・ミレルのもぐら（クルテク）のぬいぐるみなども展示しました。いずれも班員が個人的にチェコで購入したものです。

④ 展示方法



本が閉じないように透明なフィルムを巻く

本を開いて展示する際に保護用のフィルムを巻いたり、支えになる台を置いたりしています。

今回は、クヴィエタ・パツオウスカーやヴォイチェフ・クバシュタなどのしかけ絵本を多く展示しました。開いた状態で展示するため、一工夫必要でした(上)。



展示設営風景

⑤ DVDの放映

企画段階では、チェコに親しみを持ってもらえるような映像を流すことを考えました。チェコというとなまずアニメーションが思い浮かびますが、

図書館での上映は、著作権の観点から見送りました。

ミュージアムの外側にあるラウンジで、「チェコ共和国 Part-2 中欧の宝石を訪ねて」(制作:チェコセンター観光部。上映時間17分54秒)を放映しています。チェコの古城、アミューズメント、博物館、教会などを紹介する内容です。チェコの雰囲気を感じることができると好評です。

⑥ 配布物など

展示資料リスト(8頁)、展示順路図(日本語版、英語版)、アンケート(大人用、子ども用)を作成しました。

7 イベント

会期中には、展示会に関連した講演会やギャラリートークを開催します。



村上健太氏

開会の翌1月27日には、サクソク四重奏による「スラヴ舞曲」「ユーモレスク」などのチェコ音楽の演奏と、監修者(上)による講演会「チェコ児童文学への招待」を行ったところ、キャンセル待ちの列ができるほどの盛況でした。

3月16日には監修者によるギャラリートークを2回行い、延べ94名の参加者が熱心に説明に聞き入っていました。

4月26日にはチェコセンター所長ペトル・ホリー氏による講演会「チェコの子どもと読書」が

あり、こちらも大勢の参加を得ました。講演は流暢な日本語で行われ、チェコ語による絵本の朗読もありました。

7月12日にはチェコから講師を招へいしての講演会を予定しています。

8 陰の展示班

どんなにすばらしい内容であっても、より多くの人に展示会について知ってもらい、足を運んでもらわなくては意味がありません。

展示内容を検討する班員がいる一方で、各種メディア対応や事務手続きなどを担当し、展示会を支える職員もいます。

9 展示会の案内



The screenshot shows the website for the exhibition 'チェコへの扉 - 子どもの本の世界' (The Door to the World of Children's Books from the Czech Republic). The main banner features the title and dates: '平成20年1月26日(土) - 平成20年9月7日(日)'. Below the banner are several children's book covers. On the right side, there is a navigation menu with various options like '展示会のご案内' and '資料の検索はこちら'.

当館ホームページ
「チェコへの扉—子どもの本の世界—」トップ画面

「チェコへの扉」展の情報（展示資料リストや関連イベントのお知らせ）を当館ホームページ

ジ (<http://www.kodomo.go.jp/event/exb/bnum/tenji2008-01.html>) でご覧いただけます。

また、本誌 565（平成 20 年 4 月）号では、「誌上展示会」と題する記事を掲載しています。

10 おわりに

会期は9月7日（日）までです。上野へいらして、チェコの子どもの本の世界に触れてみてください。



展示班メンバー

期 間：1月26日（土）～9月7日（日）
場 所：国際子ども図書館3階「本のミュージアム」
講演会：7月12日（土）（詳細は29頁参照）

（国際子ども図書館「チェコへの扉—子どもの本の世界—」展示班）

使う人がいる 守る人がいる

第6回 利用による破損とその対策

資料は利用されてこそ存在価値がありますが、利用されるたびに確実に傷みが進んでいきます。

ページを開いたりコピーをとったりすると、力がかかりやすい綴じ部分や、頻繁に手で触れる小口は特に傷みやすく（写真1）、破損した箇所を和紙で補強する、必要に応じ



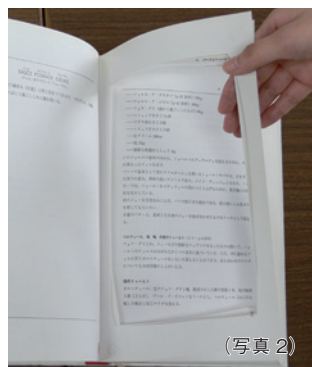
(写真1)

て製本し直す等の処置を施しています。しかし、これらの傷みとは別に、利用者の心ない行為による人為的な破損も少なからず生じています。

資料の切り取りや書込みはその一例です（写真2）。欠損したページは、複本をコピーして補うなどの方法で補修をします。書込みはできる限り消しゴムで消します。しかし、すでに入手不可能な資料やペン書きのものなど

修復できないものも少なくありません。

さらに、利用する際の何気ない行為によっても資料



(写真2)



(写真3)

を傷めてしまう場合があります。しおりに使わずページの角を折り曲げたり、酸性紙のメモ用紙を挟んだまま長期間放置したりする（写真3）とその部分の紙を劣化させます。また、資料内にのり付き付箋を貼ると、はがす際に資料を傷め、残留した化学のりが悪影響を与えます。

このような中で、資料の補修や媒体変換などをする一方で、日々利用者と接する現場で地道に積み重ねていく対策もあります。例えば利用者にパンフレット等で利用上の遵守事項を明確に打ち出し、周知することもそのひとつです。また、資料の状態に即して利用者へ取扱い上の注意点を伝え、場合によっては特別な閲覧室内のみでの利用とするなどの対応をしています。こうした取組みをすることで、資料は未来に遺すべき文化的財産であるという意識を利用者の皆さんにも持っていただくよう努めています。

(資料提供部図書課)

デジタル時代の新聞の保存と利用

—アメリカ、ニュージーランド、オーストラリアの取組み

五十嵐 麻理世

1 はじめに

新聞は、発行された時代を映し出す貴重な資料です。しかし新聞紙は、その紙質のために破損しやすく、たび重なる利用に耐えにくく、また劣化しやすく長期保存に適しません。また、包括的に集めることも難しい資料です。各地で様々な種類の新聞が発行されているうえ、散逸しやすく、発行日を過ぎると入手するのは至難の業だからです。

長年、新聞はマイクロフィルムに撮影して保存し利用されてきましたが、1980年代にマイクロフィルム自体の劣化問題が明らかになったことに加え、社会の高度情報化もあり、近年、デジタル化による保存やネットワークを介したサービスがいくつも進められています。



マイクロフィルム 新聞資料室には、おもなマイクロフィルムがあり、利用者が自由に手に取って閲覧できます。(LC)

筆者は2008年1月から、米国の議会図書館(Library of Congress:LC)とニューヨーク公共図書館(New York Public Library:NYPL)、ニュージーランド国立図書館(National Library of New Zealand:NLNZ)とクライストチャーチ市立図



ニュージーランドとオーストラリアでは、原紙はシュリンクラップで複数号まとめてラップして保管しています(右)。誰でも簡単に操作でき(上)、製本するよりはるかに安価です。また欠号の追加や書庫スペースにあわせてラップし直すことも容易で、害虫も防げます。(SLNSW)



書館(Christchurch City Libraries:CCL)、オーストラリア国立図書館(National Library of Australia:NLA)とニューサウスウェールズ州立図書館(State Library of New South Wales:SLNSW)を訪問し、デジタル環境下での新聞の保存やサービスについて調査しました。

各国とも、新聞の収集・保存・提供は他機関との長期にわたる共同事業と位置づけています。なぜなら、LCもNLAもNLNZも国内のすべての新聞を収集する任務を持ちません。代わりに各州立図書館等がそれぞれの制度に基づいて各州内の新聞を収集していますが、網羅的ではありません。そのような状況では、新聞を共有する仕組みが強く求められています。デジタル化による保存は、紙面をいつでもどこからでも閲覧できるようにし、また散逸した新聞を発見するきっかけともなる有効な手段といえます。

2 新聞のデジタル化

各国とも、著作権保護期間が満了した新聞（パブリックドメイン）のみを対象としています。新聞の著作権は複雑で、一つ一つの記事、写真、イラスト等に対して著作権処理を行うのは非現実的な一方で、著作権保護期間が満了した新聞が大量にあるからです。内容で記事を選択することもなく、常に紙面全体をデジタル化しています。



マイクロフィルムからのデジタル撮影や大量の撮影は外注しますが、特別な資料などは職員が原紙から撮影します。原紙をスキャンして、体裁を整え、高品質なデジタルデータを作成します。館が発行する図書類やグッズに利用することもあります。(NLA)

新聞の著作権保護期間は発行後50年あるいは70年と、ある時点で明確に区切られて、署名入り記事等でもパブリックドメインとして扱うという、新聞社、図書館および社会の意識が共通しているのです。

デジタルデータは基本的に、すでに作製されたマイクロフィルムから作製しています。原紙を新たにデジタル撮影するよりはるかに安価で、作業効率がよいからです。マイクロフィルムの保存計画とあわせて進められ、場合によっては原紙からの撮影やマイクロフィルムの補修も行われています。

LCは、2004年から全米人文科学基金(National

Endowment for the Humanity)の資金援助を受けて、全米電子新聞プログラム(National Digital Newspaper Program:NDNP)を進めています。LCが保存用システムや大容量通信システムを開発し、参加している8機関(2007年現在)がそれぞれ所蔵するマイクロフィルムをデジタル化して各種データと共にLCに送付しています。その後LCがデータの認証や確認を行い、保存のためのデータ処理を行ってサーバに保管しています。参加館の一つであるNYPLでは、紙面単位でメタデータを自動付与していますが、NDNPのデータ管理の基準が厳重なため、手入力に頼ることが多いとのことでした。

NLNZは、Papers Pastという新聞デジタル化事業を行っています。紙面データから記事を自動抽出して記事ごとにOCR(光学文字読取装置)で閲覧することができ、OCRの可読率はほぼ100パーセントです。辞書機能を充実させ、同じ綴りの単語でも意味を自動的に識別する機能を開発中でした。また、NLNZが作成する新聞や雑誌の記事索引Index New Zealandのデータを、他機関が作成する索引と共有する総合記事検索サービスFindNZArticlesも拡充させています。

NLAは、Australirian Newspaper Plan:ANPlanを展開しています。これは過去の新聞に関する情報提供の呼びかけや、マイクロフィルムの劣化対策、デジタルデータの長期保存対策等、

オーストラリアの新聞の収集・保存・提供に関する総合プロジェクトです。国内の包括的な新聞デジタル化プロジェクト Australian Newspapers Digitisation Program : ANDP もその一つです。ANDP では、OCR を改良して紙面データから記事を自動抽出するだけではなく、内容を自動的に識別して、記事、投稿欄、広告等にカテゴリ分けする機能も開発しています。NLA がシステム開発と全体計画を担当し、州立図書館等の参加館がそれぞれ所蔵するマイクロフィルムをデジタル化しています。参加館の一つである SLNSW では、ANPlan 開始当初はコスト面での負担もあり、館内でも参加することに疑問の声もあったそうですが、今では州内の図書館等への広報活動も担い、技術的支援やデータの確認も行っています。

3 新聞資料室でのサービス

今回訪問したどの新聞資料室でもデジタルマイクロフィルムスキャナ（右上）を備え、マイク



資料室内のコピーカード発行機でチャージしたカードを用いて、電子ジャーナルを提供している端末から複写もできます。(NLA)



デジタルマイクロフィルムスキャナ。マイクロフィルムをスキャナで読み込み、端末からデータを送信することもできます。(LC)

ロフィルムから必要な紙面や記事を選び、デジタルデータとして USB メモリ等にコピーして持ち帰ったりメールで自宅に送信したりできるサービスを行っていました。職員による著作権チェックは行わず、資料室内に著作権の内容と注意書きが大きく掲示され、スキャナに付随した端末では、著作権への配慮に対する責任は利用者にあることに同意しないとコピーができないように設定されていました。

また 10 台以上の端末で、多くの電子ジャーナル（新聞記事データベース等）が提供されていました（左）。電子ジャーナルにはオリジナルの新聞記事を取捨選択したものが多く、記事が事後に修正されることもあり、利用に当たっては注意が必要です。しかし、横断記事検索やコピーなどが容易なため、端末はほぼ満席の状態でした。

電子ジャーナルの価格の高騰への対処や、小規模図書館等の利用者の情報リテラシーの向

上のため、ニュージーランドでは2004年から Electronic Purchasing in Collaboration:EPIC、オーストラリアでは2007年から Electronic Resources Australia:ERA という電子ジャーナルの共同購入が行われています。

EPIC では、NLNZ が中心となった事務局にテクニカルチーム、ベンダーとの交渉チーム、研修チームを設け、各電子ジャーナルの特性をふまえた総合的な利用案内や研修を各地で行っているとのことでした。なお、この事務局の構成は、

EPIC に限らず NLNZ のほとんどのプロジェクトで採用されているようで、他の図書館等への支援というだけではなく、NLNZ の事業の広報活動にも役立っているということでした。

また CCL では、図書館利用カード番号とパスワードがあれば誰でも自宅で電子ジャーナルを閲覧することができるように EPIC やベンダーと協議を進めています。図書館利用カードは、クライストチャーチ市では生まれたときに市からプレゼントされ、外国人でも簡単に持つことができます。

各国のおもな新聞デジタル化事業（2007年現在）

	LC (米国・議会図書館)	NLNZ (ニュージーランド国立図書館)	NLA (オーストラリア国立図書館)
新聞の収集・保存・提供等にかかる全体計画	NDNP http://www.loc.gov/ndnp/		ANPlan http://www.nla.gov.au/anplan/
おもな新聞デジタル事業	Chronicling America http://www.loc.gov/chroniclingamerica/	Papers Past http://paperspast.natlib.govt.nz/	Australian Newspaper Digitisation Program http://www.nla.gov.au/ndp/index.html
参加館数	8 館	1 館	9 館
開始時期	2004 年	2001 年	2007 年
デジタル化の対象期間	1836-1922 (現在 1897-1910)	1839-1915	1803-1954
デジタル化したタイトル数	約 60	44	約 20
デジタル化した総ページ数	約 226,000	約 1,120,000	約 800,000
参加館が作成するファイル	TIFF (マスター), JPEG2000, PDF, XML(ALTO), MARC(CONSER), エッセイ等	TIFF (オリジナル)	TIFF(マスター)
サーバにデータを取り込む際に使用するおもな認証ツール	JHOVE	JHOVE	JHOVE
その他幹事館が作成し保存するファイル	TIFF 6.0	TIFF (修正版マスター), PDF, JPEG2000	JPEG, PDF, サムネイル
OCRのためのスキーマ	METS/ALTO XML	METS/ALTO XML	METS/ALTO XML

(参考)

	米国	ニュージーランド	オーストラリア
最初に発行されたと考えられる新聞	1801 The New York Evening Post	1839 New Zealand Gazette	1803 The Sydney Gazette and New South Wales Advertiser
新聞の著作権保護期間	70 年	50 年*	50 年*

* 70年に延長する予定である。ニュージーランドでは、延長されることを見込んで、70年以上経過した新聞のみデジタル化している。

4 オンライン新聞

最近はオンライン版の新聞も増えていて、どの図書館でもHPにリンク集を設けていますが、著作権等の制度上の制約や技術的問題があり収集が難しいので、LCやNLAでは保存に着手していません。

ただ、ニュージーランドでは、2003年からインターネット情報およびオンライン出版物もNLNZへの納本対象となったため、NLNZは英



ニュージーランド国立図書館

国図書館と共同開発したウェブ収集ツール（Web Curator

Tool）を用いて収集し、選択的にオンライン新聞の記事を収集しています。発行者の承諾は必要ありません。国民の関心の高い選挙やスポーツイベント等をテーマとして、現在2名の職員（肩書きはウェブキュレーター）が紙媒体の新聞の切り抜きのような感覚で、オンライン記事を収集・整理しています。

またデジタルコンテンツのためのリポジトリ、国家デジタル遺産アーカイブ（National Digital Heritage Archive：NDHA）の一部として先行開発しているウェブデポジットシステムを2008年10月から運用予定だそうです、すでに新聞社を含

む各種出版社に説明を行い始め、オンラインによる納本への協力を呼びかけているとのことでした。NDHAでは物理的単位ではなく内容で整理するため、様々な媒体やフォーマットで保存された新聞記事などを重複せずに認識することができるようになるそうです。

5 おわりに

各国とも、データを長く共有して利用するために、オープンソースを基本としたシステム環境の整備や標準化を進めています。そのために、共同事業の意義やメリットを伝える広報活動や研修プログラムも充実させています。

例えばNLAでは、新聞のデジタル化の手順やフォーマット等を検証して標準を定め、国内外の図書館等にガイドラインを配布しています。デジタルカメラなどの機材を持たない機関には、スタンダードキットと呼ぶ各種機材のセットを貸し出しており、さらに希望があれば職員が現地に赴いて研修も行っています。

互いの役割を認識し合って密接な協力体制を築き、制度的、技術的、コスト的に可能なことからこつこつと新聞の保存と利用の拡大に取り組んでいる姿勢は、これからの当館のサービスを考えるうえでたいへん参考になりました。

（いがらし まりよ 国際子ども図書館 企画協力課）
※この調査は筆者が主題情報部新聞課に在籍していたときに行ったものです。

本を魅せる

常設展示案内 30

虫を記録するー昆虫図鑑古今東西 第154回常設展示

期間：平成20年6月19日～8月19日 場所：本館2階第一閲覧室前（東京本館）

最近、昆虫を観たことはありますか。都会でも、注意して見れば春の空には蝶が舞い、秋の空にはトンボが飛んでいます。地球上に生息する昆虫の種類は非常に多く、現在までに記録されているだけでも推定で80万種を超えといわれ、すべての動物の種類のうちほぼ4分の3に上ります。この中には、私たちが一度も見たことのない昆虫もたくさんいることでしょう。しかし、たとえ見たことがなくても、おもな種類であれば、私たちは昆虫図鑑を使ってその昆虫がどんな虫なのかを調べることができます。

国立国会図書館は、多種多様な昆虫図鑑を所蔵しています。今回の展示では、当館の所蔵する特徴ある昆虫図鑑およびその関連資料を選び出し、第1章から第3章の3部構成でご紹介します。

第1章では、日本の昆虫を扱った図鑑を取り上げます。一口に日本の昆虫の図鑑といっても様々なものが刊行されていますが、地域別の図鑑や特定の種類の昆虫を取り上げた図鑑、戦前の昆虫図鑑など、特徴的な図鑑をご紹介します。また、厳密には図鑑とはいえませんが、本物の蝶の鱗粉を糊で写し取った『蝶蛾鱗粉転写標本』（第70号 名和昆虫研究所工芸所 1909（明治42年））といった珍しい資料も展示します。

第2章では、世界の昆虫を扱った図鑑をご紹介します。主に18～19世紀に海外で刊行された資料を取り上げます。ドイツに生まれオランダで活躍した女性昆虫・植物画家メーリアンも、博物学が盛んだったこの時代に美しい昆虫図譜を残しています（パネル展示）。また、20世紀初めに出版され

たドイツのザイツ博士による蝶類図鑑 *Die Gross-Schmetterlinge der Erde* ([1909?]-1954) は、全部で32冊にもなる大著です。

第3章では、研究者から在野の昆虫愛好家まで、昆虫が好きな人々が手がけた著作物として、初心者向けの案内書（昆虫の採集法、標本製作・保存法、標本ラベルの記録法など）や、独自の視点による昆虫観察記等の作品をご紹介します。日本で最初に一般に流通した昆虫採集書『採虫指南』（曲直瀬愛著 1883（明治16年））や、フランスの博物学者ジャン＝アンリ・ファールブル（Jean-Henri Casimir Fabre）の『昆虫記』（*Souvenirs entomologiques*）の大杉栄による日本初の翻訳本（1922（大正11年））も展示します。

虫たちの振る舞いは、私たち生き物の社会の縮図ともいえます。このような昆虫図鑑や昆虫案内書を通じて、昆虫の生態に注目してみませんか。昆虫を観ることは、身近なところで自然と触れる好機となるでしょう。

こばやしやすなお こほりたすけ やすだひろゆき
(小林廉直、小針泰介、安田浩之)



マダラシロテフ

『蝶蛾鱗粉転写標本』 名和昆虫研究所工芸所 1909
<当館請求記号 YDM57531 >

展示会についての詳細は、当館ホームページの中の電子展示会にある「常設展示」のコーナーをご覧ください。
<http://www.ndl.go.jp/jp/service/tokyo/permanent/index.html>

本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

資料で見る南海高野線のあゆみ

森本宏、平芳資也、加田芳英共著
〒560-0081 大阪府豊中市新千里北町2丁目13番10号
2007.3 111頁 A4 (DK53-H367)

いま高野山には年に130万人前後の参詣客が訪れる。ユネスコ世界遺産に登録されてその数は増えたが、それ以前からも100万人を超える人々の信仰と観光の地であった。

南海電鉄高野線は、大阪ミナミの難波駅から和歌山県橋本市を經由して高野山極楽橋に至る60キロ余の鉄道である。大阪方面からの最も一般的なアクセス手段であり、まさに高野山への最大の動脈である。

沿線に河内長野、千早口などの歴史ある土地を通る。大阪近郊私鉄として大量の通勤客を運ぶ。

本書は、和歌山県橋本市郷土資料館の平成18年度企画展『橋本・大阪間電車開通90周年記念展』を機に自費出版された。地元の鉄道研究家を核に、南海電車をこよなく愛するという共通の情熱のもとに多くの協力者を得て結実したものである。

内容は橋本開通後90年にとどまらず、その前史も含めた113年をカバーしている。また、鉄道と密接にかかわる地域産業や文化の記述も豊富なので、地域史にもなっている。これが本書の特色の第一である。

高野線は一挙に高野山まで開通したのではない。長い時間をかけて延長し、あるいは合併によって現在の姿になった。経営危機もあった。大変な工事が

何か所もあった。ストライキで従業員が高野山にこもり役僧が仲裁に入ったこともあった。こうした困難を乗り越えてこの地方にとって不可欠な存在になった。

かかわった人脈や資本関係は近畿地方にとどまらない。その多彩ぶりを見ると、明治・大正期の鉄道敷設に対する国全体の情熱が感じ取られる。

第二の特色は、写真や絵などのいろいろな資料を八方手を尽くして発掘していることだ。これが見ていて何とも楽しい。楠公遺蹟巡り、栗拾い、紅葉狩り、みかん狩り、松茸狩り、芋狩り、兎狩り？なんてポスターから、沿線名所図会、切符、記念スタンプ、「日本で初めての女性駅長」などの豊富な新聞記事、駅・運賃の変遷表にいたるまで大変充実している。特に車両は、写真や図面が全時代にわたって詳細に紹介されていて、鉄道ファンを飽きさせない。これが第三の特色である。

このように高野線を俯瞰して見られること自体が、沿線で育った人々や鉄道ファンにはこたえられないだろう。私には現在のステンレス製の車両よりも以前の型の方が独創的であったように思える。表紙も、昭和30年代に活躍した「緑の電車」だ。鶯



色の車体の腰に緑の帯が流れ、その帯が左右から正面の真ん中に流れ落ちるようにして結ばれる。戦後和歌山生まれの私にはこれがいちばん懐かしいが、本書を見ると、これも歴史のほんの1ページで、実に多くの型の車両がこの地を走っていたことがわかる。

もし沿線の住民やファンが集まってどの車両が一番好きかと論じ合えば、きっと議論百出だろう。退役した車両が時代を超えて集まって、それを見ながら顎をさすってフッフッフッと微笑むだろう。

南海電車は、和歌山までの柔らかな森の緑と海の青とそこに暮らす人々のアイデンティティだった。

むかしテレビでこんなCMソングがあった。

山は静かな塔の屋根

杉の木立の高野山

弘法大師のむかしをのせて

走る電車はみどりの電車

きっと今でもこの歌を前奏から歌える人が多いに違いない。

本書を見ると、編さんに加わった方々の、高野線と自然や人々の暮らしに寄せる愛情を感じずにはいられない。

よしもと おさむ
(吉本 紀)

夢の50年史 高級化粧品アルビオンの歩み 1956-2006

アルビオン夢の50年史編纂委員会編纂
〒104-0061 東京都中央区銀座1-7-10
2007.7 207頁 28.5×21.5

(DH22-H478)

「浮気をしても必ず戻ってくるんです」といった多数のクチコミに支えられ、30年以上の長きにわたり中身もパッケージもほとんど変わらずに売られている、1本5,000円以上もする高級化粧水があることをご存知だろうか。その化粧水を作り続けている化粧品メーカーが、アルビオンである。

本書はアルビオンの創業50年を記念して刊行された。真っ白い表紙を開けると、白くそそり立つドーバー海峡の断崖の写真が掲載されている。アルビオンとはラテン語の「白」に由来するイギリスの古名であるそうだ。白粉や美白に象徴されるように、高級化粧品に「白」の名はふさわしい。

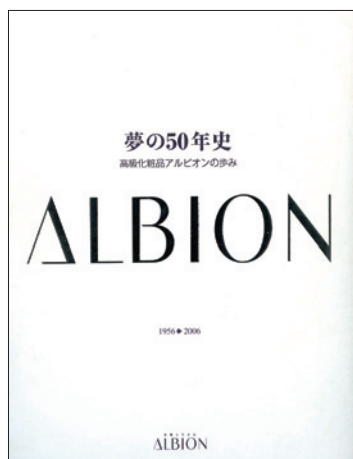
アルビオンの歴史、それは社是「権威は自らつくる」の名のとおり、高級イメージをいかに徹底して作り上げ、保ち続けるかの歴史であった。コーセー創業者小林孝三郎が、当時まだ学生だった次男英夫に「高級品だけを扱う会社を」と託したのがそもその始まりである。1956（昭和31）年、英夫の大学卒業と同時に創業。以来、徹底した高級品路線を貫いた。化粧品の平均的な値段が200～300円であった当時、800円の化粧水、1000円の乳液、と挑戦的な値段設定を行い、領収書も市販のものを使

わず独自のロゴ入り、しかも桁数は13桁(兆の単位)までであったという。

また、カリスマ美容部員町田智子による徹底した指導もアルビオンの特色であった。当時は浮ついた職業

とされていた美容部員に対するイメージを払拭するため、禁酒禁煙に徹し、靴の脱ぎ方、お茶の入れ方といったマナー教育まで行ったという。なお、町田が創業時に発案した、化粧水より先に乳液を使うという使用法は、現在でもアルビオンの特色として継承されている。

しかし、本書の特徴はこのようなエピソードにとどまらない。本書は、輸入自由化、高度成長期といった経済の変化に伴い、化粧品販売戦略がどう変化していったかという歴史をかいま見ることができる。特に、再販制度との絡みは大きい。導入当初は流通秩序をはかるものであった再販制度だが、流通が安定してくるとともに物価高騰の原因とされ、再販実施メーカーには高価格を規制する等の監視が行われるようになった。それでは高級路線が損なわれてしまう。アルビオンは1973(昭和48)年、「法律のバックがなくても取引店とは緊密な信頼関係があるから問題ない」と、自ら再販制度から撤退した。また、1976年頃、スーパーマーケットがデパートの売上



げを上回るようになった時代には、取引店が大手スーパーの傘下に入ったり、大手スーパーからアルビオン製品を取り扱いたいとの申し入れがあるなど、スーパーとの関わりも注目された。当然、アルビオンはスーパー傘下に入った取引店とは解約し、スーパーでの製品取扱も謝絶している。

さらに、最近の化粧品業界は、再販制度の完全撤廃、ドクターズコスメの流行や通信販売の普及等、創業当初とは全く違った環境にあるが、アルビオンは海外ブランド、デザイナーと独自に提携し、業績を伸ばしている。1986年にエレガンス社と提携したのを始めとして、1987年ソニア・リキエルと、1995年には香水のブルガリ パルファム、1998年にアナスイと…「あのブランドもアルビオン関連会社だったのか」と驚く方も多いだろう。決して表にアルビオンの名を出さない、この奥ゆかしさもまたアルビオンらしさと言えよう。

外資系メーカーのような豪華絢爛さはなく、かといってデパートからスーパーまで様々な商品を展開する大手メーカーとも違う。しかし、「白」の名のとおり、孤高で高級なイメージを保ち続けるアルビオン。タイトルに「夢の」とあるように、美に憧れる者にとって化粧品とは夢の結晶であり、他の生活消耗品とは一線を画すものだ。美の象徴を徹底して追及する姿は潔く、それこそがロングセラー化粧水を売り続ける姿勢につながっている。

本書は、手書きの出張記録や、懐かしいファッションに身をつつんだ美容部員の研修風景、広告写真等の資料も豊富である。
(古野 朋子)



今 月 の お も な 出 来 事

法 規 の 制 定

【法律第 20 号】 国立国会図書館法の一部を改正する法律

(平成 20 年 4 月 25 日公布)

株式会社日本政策金融公庫法（平成 19 年法律第 57 号）等による政策金融機関の再編および日本年金機構法（平成 19 年法律第 109 号）による日本年金機構の設立に伴い、新たに設立される法人に国または地方公共団体の諸機関に準ずる出版物の納入義務を課すこと等を定めたものである。この法律は、平成 20 年 10 月 1 日から施行される（ただし、地方公営企業等金融機構に係る部分は公布の日から、日本年金機構に係る部分は日本年金機構法の施行の日から施行）。

【規程第 4 号】 国立国会図書館法による出版物の納入に関する規程の一部を改正する規程

(平成 20 年 4 月 25 日制定)

地方公営企業等金融機構が納入する出版物の部数を 4 部と定めたものである。国立国会図書館法の一部を改正する法律（平成 20 年法律第 20 号）中地方公営企業等金融機構に係る部分の施行の日から施行された。

なお、これらの法規の施行による改正後の国立国会図書館法（昭和 23 年法律第 5 号）および国立国会図書館法による出版物の納入に関する規程（昭和 24 年国立国会図書館規程第 3 号）は、当館ホームページ「国立国会図書館について」－「関係法規」（<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/laws.html>）に掲載している。



お知らせ

国際子ども図書館展示会 「チェコへの扉ー子どもの本の 世界」関連講演会

国際子ども図書館では、チェコの子どもの本の展示会を開催しています。展示会関連催物として、以下の講演会を行います。

- 日 時 7月12日(土) 14:00～16:30 (予定)
- 会 場 国際子ども図書館 3階ホール
- テーマ 「チェコの児童書の歩みと研究の今」(仮題)
- 講 師 Martin Reissner (マルチン・ライスネル) 博士
(チェコ共和国マサリク大学教員 チェコ児童文学研究者)
※通訳付き
- 対 象 中学生以上
- お申込方法 事前申込制です。直接来館、往復はがき、電子メールでお申し込みください。定員は100名、先着順です。
※お申込方法の詳細は、国際子ども図書館ホームページ (<http://www.kodomo.go.jp/>) をご覧いただくか、電話でお問い合わせください。
- お問い合わせ先
国立国会図書館国際子ども図書館 企画協力課
〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-49
電話 03 (3827) 2053 (代表)

展示会のご案内

- 開催期間 1月26日(土)～9月7日(日)
- 休 館 日 月曜日、国民の祝日・休日、資料整理休館日(第三水曜日)
- 開催時間 9:30～17:00
- 会 場 国際子ども図書館3階 本のミュージアム
- 入 場 無料。年齢をとわずどなたでもご覧いただけます。
詳細は国際子ども図書館ホームページ (<http://www.kodomo.go.jp/>) をご覧ください。

お知らせ

国際子ども図書館

夏休み催物「科学あそび」

光のふしぎーみんなで楽し

く万華鏡づくり



昨年の様子

国際子ども図書館では、毎年夏休み期間にあわせて、子ども向け催物を行っています。本年も、科学の本に対する子どもたちの興味を引き出す「科学あそび」を開催します。

対象年齢別に2コースを設けます。鏡などを用い、ものの見え方の実験をしたり、光の性質を学んだりしながら、自分だけの万華鏡作りを楽しみます。

- 日 時 7月26日(土) 午後1時30分～、3時～
7月27日(日) 午後1時30分～、3時～
各回とも2コース実施。4回ともすべて同内容です。
所要時間はいずれも1時間程度です。
- 会 場 国際子ども図書館3階ホールおよびワークルーム
- 対 象 かがみコース(満4歳以上)
光コース(小学校1年生以上)
※どちらも大人の方は入れません。
- 人 数 各コース・各回とも15名程度
- 参加費 無 料
- お申込方法 事前申込制です。直接来館、往復はがき、電子メールでお申し込みください。先着順で、定員になり次第締め切ります。
申込みは7月1日からです(予定)。詳細は国際子ども図書館ホームページ(<http://www.kodomo.go.jp/>)をご覧ください。
※「科学あそび」開催日は、「子どものためのおはなし会」をお休みします。
- お問い合わせ先
国立国会図書館国際子ども図書館 児童サービス課
〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話 03(3827)2053(代表)



お知らせ

国立国会図書館開館 60 周年 記念行事のご案内

国立国会図書館は、昭和 23 年 2 月に創設され、同年 6 月 5 日に開館し、本年 60 周年を迎えます。国会の立法活動を支える立法補佐機能と我が国の国立図書館としての機能を持ち、時代のニーズに対応しながら、いろいろなサービスを行ってきました。

60 年の歩みと国立国会図書館の活動を多くの方に知っていただくために、次のような記念行事を予定しています。

*申込みは、それぞれの催しの 1 か月前に開始予定です。

*詳細は当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) で随時お知らせします。

(1) 開館 60 周年記念シンポジウム

○テーマ 「IT 時代の国立国会図書館－知識・情報の公共基盤として－」(仮題)

社会の変化の中でこれからの国立国会図書館のすすむべき方向性を考えるシンポジウムです。立法補佐機能の将来についての講演のほか、知識や情報をとりまく文化的・技術的变化の中でこれからの知識の公共基盤のあり方を考えるパネルディスカッションを行います。

○日 程 11 月 19 日 (水) 午前・午後

○会 場 東京本館新館講堂、関西館第一研修室 (中継)

無料、事前申込み

(2) 開館 60 周年記念展示会

○テーマ 「国立国会図書館開館 60 周年記念貴重書展 学ぶ・集う・楽しむ」

60 年の歩みのなかで構築されたコレクションから、貴重書、準貴重書等約 80 点を公開します。和漢の代表的な古典 (伊勢物語、源氏物語、論語等)、江戸時代の学者・文人の自筆本・書入本・書簡等、絵巻から多色刷り版本までの彩色本の流れの 3 部にわけご紹介します。入場無料

① 東京本館

○展示会 10 月 16 日 (木) ～ 10 月 29 日 (水) 土・日を含む

(開催時間: 10 時～ 18 時)

お知らせ

○記念講演会

10月25日(土)午後 講師:阿刀田高氏(作家・日本ペンクラブ会長)
無料、事前申込み

② 関西館

○展示会 11月13日(木)～11月26日(水) 土・日・祝を含む
(開催時間:10時～18時)

○記念講演会

11月22日(土)午後 講師:藤本孝一氏(龍谷大学客員教授)
無料、事前申込み

(3) アジア・オセアニア地域国立図書館長会議(CDNLAO) 公開セミナー

○テーマ 「電子情報環境下におけるアジア・オセアニア地域の国立図書館」(仮題)
○日程 10月21日(火)午後
○会場 東京本館新館講堂
無料、事前申込み

新刊案内 国立国会図書館の 編集・刊行物



レファレンス 688号 A4 129頁 月刊 1,050円 発売 日本図書館協会
・密集市街地の整備と都市防災
・スイスの外国人政策と新しい外国人法
・中国の信訪制度について
・コンテンツ産業振興の政策動向と課題
・G8 サミットへのNGO・市民社会の関与
・イギリス及びフランスの予算・決算制度

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 03(3523)0812

CONTENTS

- 02 *Shosai no gakujin* - a book with bags of bagworms pasted on the spine, published by Tenboshsha (Book of the month - from NDL collections)
- 04 Series commemorating the NDL's 60th anniversary
 "1998-2008" Topics during the last decade and future prospects
 (3)New service points - Kansai-kan and International Library of Children's Literature
- 12 Exhibition at the International Library of Children's Literature
 How "Door to the Czech Republic: The world of children's books" was prepared
- 18 People who use, people who maintain (6) Damage by use and countermeasures
- 19 Preservation and use of newspapers in the digital era
 - efforts being made by the United States, New Zealand and Australia
- 24 Recording insects - illustrated guides to insects of all ages and countries (Enchanting world of books - Guide to regular exhibition, 30)

11 Tidbits of information on NDL

What can be seen from highly individual languages

25 Books not commercially available

- ・ *Shiryō de miru Nankai-Koyasen no ayumi*
- ・ *Yume no 50 nenshi Kokyū keshohin Arubion no ayumi 1956-2006*

28 Monthly official report - laws established

29 < Announcements >

- ・ Lectures related to the exhibition at the International Library of Children's Literature: Door to the Czech Republic: The world of children's books
- ・ Summer event of the International Library of Children's Literature: Fun with science "Wonder of light - enjoying making kaleidoscopes together"
- ・ Commemorative events of the NDL's 60th anniversary
- ・ Book notice - publications from NDL

国立国会図書館月報

平成20年6月号 (No.567)

平成20年6月20日発行 定価525円
(本体500円)

発行所 国立国会図書館
 編集責任者 網野光明

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
 電話 03(3581)2331(代表)
 F A X 03(3597)5617
 E-mail geppo@ndl.go.jp

発売 社団法人日本図書館協会
 〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
 電話 03(3523)0812
 F A X 03(3523)0842
 E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社平文社



『菓物帖』から青梅
正岡子規画 明治 35 (1902) 1 帖 12cm 自筆本
< WB38-2 >

国立国会図書館月報

平成 20 年 6 月 20 日 発行 (毎月 1 回 20 日 発行)
(6 月号 通巻 567 号)

発売 : 社団法人 日本図書館協会 定価 525 円 (本体 500 円)